

Field Study

Workshop 2016-1

日時・場所：2016年7月3日（日）、午後2時～6時、総合地球環境学研究所 セミナー室5

ワークショップの内容：

司会：村山 聡（香川大学）（プロジェクト内容及び北海道グループの紹介を含む）

第1報告：服部亜由未（愛知県立大学）「春鯨を求めて北へ向かった人々」

第2報告：野間万里子（日本学術振興会）「根釧パイロットファーム初期入植者の経験」

ディスカッサント：島西智輝（東洋大学）

なお、このワークショップに先立ち、3日（日）、午前10時から午後2時までの時間で、京丹波町ならびに京都市内の巡検を行う予定です。出発は、午前10時過ぎで、集合場所は京都駅八条口のトヨタレンタカーです。

この巡検の趣旨は、明治43年の地誌の叙述より、例えば、現在の京都市の旧田中村（京大周辺）で、乳牛の牧場が15ヶ所あり、310頭の乳牛が飼われていたことが記載されております（他でも飼育されておりました）。当時はこの地は京都市と市外が接する場所でした。1912年の地籍簿では、三井家や住友家の邸宅や所有地も見られる地域です。

乳業用の牧畜はかなり新しい傾向だったと思われます。それとは異なり役牛については江戸期からも広く分布しており、愛宕郡の最北端である久多などでは、戦後もしばらくの間は、一家に一頭というような割合で飼育され、お嫁さんが全ての世話をしていたことが知られています。他方で、現代では、京丹波町などでの肉牛としての丹波牛の生産などが知られております。牛の飼育地から社会の変化や地域ネットワークの変化を探ることを当面の目標として、巡検を行う予定です。

最後に、この巡検とも関連して、1880年頃と1908年の二つの時期の地誌が比較できる愛宕郡について、雲ヶ畑で近世から近代にかけての貴重な行政文書が発見されました。近世から近代をつなぐ文書群は非常に限られておりますので、近世近代を中心に扱う本研究プロジェクトでは中核的な史料になる可能性があります。まだ文書目録すら作成されていないその資料整理のための初回の調査を翌日4日月曜日に、京都府立大学の東昇氏を中心にチームを組んで行う予定です。
